

今

やインターネットは、生活の手段として我々の生活に密接に入り込んでいる。1969年7月、UCLA（カリフォルニア大ロサンゼルス校）のLeonard Kreinrock教授はARPANETの最初のノードとなるIMP（Interface Message Processor：パケット交換機、ルータの元祖）設置のプレスリリースで、将来、ネットワークが電気や水道のようにユーティリティ（公共施設）として使われるようになるとの主旨を述べた。「インターネットの誕生」と言われるときにそのような予見をした彼の先見性に驚かされた。同じ頃の1970年、大学から企業に入った私に対し、部長の田中明さん（故人、元NEC技師長）は「これからはコンピュータネットワーク時代だ」と語った。そうして私はコンピュータネットワークの研究・開発を開始することができた。そのおかげで今の私があると言っても過言ではなく、その先見性にも感服し、大変感謝している。コンピュータネットワーク誕生の時期から、この分野に携わり、Kreinrock教授をはじめ、コンピュータネットワークを創った著名な方々や関連する多くの研究者と知り合い、その発展とともに歩んでいくことができたことは、望外の喜びである。1974年、UCLAで稼働中の最初のIMPを見せてもらったが、2010年に再び訪問した際に、倉庫の中に置かれているIMPに再会し、感激した。インターネットは1つの文化であり、このような歴史的意義があるものやインターネットの発展に寄与した人々のビデオメッセージをインターネットの博物館を作って残しておいてもらいたいと思っている。

現在、センサ機器、家電製品から自動車まであらゆるものがネットワークにつながり、もののインターネット（Internet of Things）と呼ばれる形態になりつつある。イーサネットを開発したRobert Metcalfe博

士は、「通信網の価値は利用者数の二乗に比例する」と言ったが、膨大な数の端末や機器が接続される今日において、インターネットの価値は測り知れない。私はかねてから、「ネットワークは人間関係を加速する」と言ってきた。現在、ビデオ会議やソーシャルネットワークなどの普及によって人間関係が密になり、そのことを実感している。これからのネットワークとして、H2H（Human to Human）から、心と心をつなぐH2H（Heart to Heart）のネットワークを期待する。視覚、聴覚に加え、触覚、臭覚、味覚など五感が伝わるものになれば、より密なコミュニケーションができると思う。たとえば、ネットワー

応
般

[シニアコラム]

IT好き放題



[No.39]

インターネットとともに歩んで

クを介した握手やタッチなどの接触の実現が期待される。すでに、バーチャルアイドルの初音ミクとの握手ができるという興味深いシステムが開発されている。今後のさらなる発展を期待したい。さらに現在、ビッグデータを使った予測、予知が可能となり、市場予測、エネルギーの需要予測、選挙の議席予測、故障予測、地震予知などに、その威力を発揮し、安心、安全、快適なネットワークが求められている。また、心の豊かさ、満足感、幸福感を与えるネットワークが望まれる。ビッグデータを用い、人の行動をデータにとり、コールセンタにおける休憩時間の過ごし方に着目し、最終的に人に優しく幸福が求められているものも出てきており、望ましい形になってきていると思う。お節介にならず、困ったときにそっと手を差し伸べてくれるサービスを期待したい。さらに、ネットワークは人がまったく意識しないものとなる必要がある。しかし単なる空気のような存在ではなく、そのときの状況に応じた適切な対応をしてくれる空気の読めるネットワークを期待したい。今後のますますの発展を大いに期待している。

（2014年1月27日受付）

勅使河原可海 Yoshimi TESHIGAWARA

東京電機大学

[正会員] teshiga@isl.im.dendai.ac.jp

1970年東京工業大学大学院博士課程修了。同年日本電気入社。1974年～76年ハワイ大学アロハシステム客員研究員。1995年創価大学工学部教授。2013年創価大学名誉教授。同年東京電機大学未来科学部研究員および総合研究所サイバーセキュリティ研究員。1991年本会理事。1997年情報環境領域委員長。